

満洲国の「五族協和」をどう評価するか

—高校「歴史総合」授業実践—

小川 涼作

1. 歴史の学び方についての考え方

歴史教育の目的の一つとして、生徒の複眼的な歴史認識を養うことが挙げられる。その際、歴史的事象に関する知識を教授するような、歴史「を」学ぶ授業や、歴史から教訓を汲み取り、過去の出来事に対する反省を促すような、歴史「から」学ぶ授業では、教員による価値観の押しつけだと感じる生徒が出ることや、後に生徒が歴史修正主義的言説に触れた時に、その影響を過度に受ける可能性を排除できない。

それに対し、歴史的事象を題材として思考のツールを手に入れる、歴史「で」学ぶ授業は、「問いの構造図」を用い、はっきりとした解答はないオープンエンドな問いかつ社会で生きていくために考える必要がある問いである「本質的な問い」について考察することで、生徒の歴史認識の複眼化・深化を促すことができる。

2. 満洲国の「五族協和」の実像を考える授業

本報告では、満洲国のスローガン「五族協和」に対する日本人・朝鮮人・中国人・モンゴル人の認識の違いを考察した授業実践を紹介した。史資料として、①「シリーズ証言記録 兵士たちの戦争 満洲国軍—“五族協和”の旗の下に」(NHK、2012年3月31日放送)、②『満洲補充読本』(復刻版、1979)を使用した(「問いの構造図」と生徒が読み取った内容については右の表を参照)。

問いの構造図	
『兵士たちの戦争 満洲国軍』について (括弧は番組内の証言者の名)	
SQ1: なぜ満洲国軍軍官学校に入校したのか?	・日本人…先兵将校として期待され、純粋に軍人として国に奉仕しようとした。(澤田氏尚、關根雷司氏) ・朝鮮人…自身のプライドの為、どうせ軍隊に行くなら将校の方がよい(キム=ユンゴン氏、キム=クァンシク氏) ・中国人…抗日戦争で勝利する為(李天成氏) ・モンゴル人…日本や満洲国の支援を得て民族の独立を図る為(楚倫氏)
SQ2: 日本の敗戦が濃厚になった後、どのような行動をとった(感情をもった)のか?	・中国人・モンゴル人…脱走・武装蜂起が相次ぐ(恩和氏、安田寛人氏) ・中国人・朝鮮人…日本の敗戦・満洲国の消滅を喜ぶ(韓文増氏、キム=ユンゴン氏) ・モンゴル人…日本人を殺害する(日高清氏) ・日本人…満洲国が傀儡であったことをはっきりとは肯定しがたい(本松良三氏)
MQ1: 「五族協和」に対する認識は、日本人とそれ以外でどのように異なるのか?	・日本人…「まとも」に受け止める「現実」 ・それ以外…別の目的のために「あえて」する「虚構」
『満洲補充読本』について	
SQ3: 日本人と中国人・朝鮮人・満洲人はどのような関係で描かれているのか?	・日本人が主、中国人は従 ・交わることはない異なる立場 →本文中の「ワタクンドモ」=「日本人」
MQ2: 『満洲補充読本』を「まとも」に読んで日本人の子どもは、民族間の関係についてどのような認識を持つのか?	・「五族」のうち日本人だけ立場が上 ・「我々」の中にその他の民族は含まれない
EQ: 現代の日本に生きるあなたは満洲国やそのスローガン「五族協和」をどのように評価するのか?	

3. 分析

EQ に対して肯定的評価をした生徒は、回答前に解説をしたクラスでは1名(24名中)、しなかったクラスでは4名(34名中)だった。また、無回答の生徒は、解説有りのクラスでは4名、無しのクラスでは11名だった。

ここから、前提知識を持たない生徒は、史資料をもとにMQの回答まではできたが、解説が伴わない場合、歴史的事象の評価までは十分に到達できなかったことが分かる。また、少数ではあるが『満洲補充読本』のねらいを素直に読み取った生徒もおり、自尊感情をくすぐる歴史修正主義的言説の直撃に耐えられない恐れもある。

生徒が自らの意見を構築していく授業を展開する際、授業者による「誘導」は極力減らしたほうがよいが、生徒が十分に前提知識を持たなければ、思考することが難しい。そこで、本実践のように史資料を多用し、読み取れる情報を元に思考することで、知識の不足を補うことができる。また、「問いの構造図」を用いることで、生徒が論理的に思考することを助けることができる。

4. おわりに

近隣諸国との歴史的和解を実現するためには、中等教育における歴史教育の中で以下のような取り組みを継続する必要がある。まず、生徒が、どのような歴史的な文脈の中で自らが思考しているのかを理解した上で歴史的事象を評価できるよう促す。そのためには、史資料をもとに自ら歴史的事象を評価するとともに、多様な評価(空間軸)・評価の変化(時間軸)を知ることが求められる。

そして、生徒が具体化と抽象化を自由自在に操ることができるよう促す。そうすることで、現代社会の問題に対する解決策をも考えることができる。そのためには、一人でも多くの教員が本実践のような「歴史で学ぶ」授業の重要性を理解し、実践する必要がある。